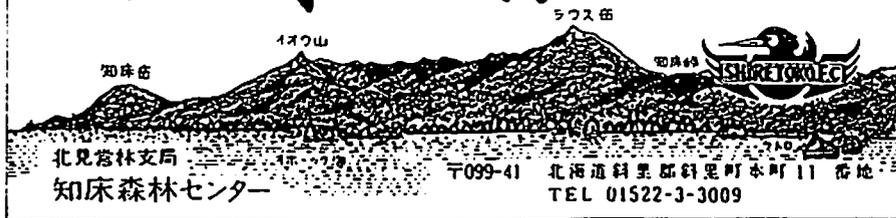


知床の森から



☆☆ 知床は今 ☆☆



月めくりのカレンダーを一枚破り捨てる頃、知床は厳寒期に入ります。1月30日根室沖に発達した低気圧は、典型的な西高東低の冬型気圧配置を示し、強い北風がオホーツク沿岸に吹き荒れました。アムール川河口で誕生し南下を続けていた流氷は、この強い北風に一気に運ばれその一部が道北の海岸に接岸し、昨年より10日遅れの流氷初日が観測されました。流氷はさらに時刻表を持たない気ままな旅をしながら、オホーツク海沿岸をなめつくすように確実に埋めていきます。

この流氷の接岸後、オホーツク沿岸の人々は流氷を主人公とした多彩なイベントを企画し、苛酷な冬と流氷を友として海明けまでの数ヶ月を遊びます。ここ知床でも冬の祭りである「スノー・フェスティバル」がロング・イベントとして開催され、流氷をバックに演出される光の祭典は、自然のオーロラをも超越したロマンと幻想の世界に誘ってくれます。

秘境知床のイメージに不似合いな、暖かい一面をのぞかせる「今、知床は」です。



流氷とともに飛来するオジロワシ



ふと目にとまった記事

ある新聞紙に「高齢者に見えない！ 街の表示」と題する記事が載っていました。高齢化に伴い、眼の水晶体も老化（黄変化）し、このため、黄色は白っぽく映り、青色はくすんで黒っぽく映る、と言う内容です。

高齢者に見えない街の表示

白黒で表示すると

- ①は白っぽく
- ②は黒っぽく



森林浴に、自然観察と高齢者の参加が多い今日、正しい色を認めてもらうためにも、今一度、案内用標識ならびにパンフレット等に工夫する必要があるように感じられます。

2 課題を発表 [業務研究発表]



平成2年度、北見営林支局業務研究発表会が、1月24日～25日の両日北見市で開催されました。発表は15課題にのぼり、知床森林センターでは、村上技術専門官がセンター設立以来8回のイベント実施経験をもとに「森林レクの企画から運営にいたる手順」をマニュアルとして発表するとともに、小垣企画係長が各種調査の合間に収集した「知床半島に生育する菌類（キノコ）の分布について」の2課題を発表しました。

「企画から運営」にいたるマニュアルは、イベント実施にあたり初めて企画担当する人々にも、迷うことなく目的に添ったイベントの実施ができるよう項目別に整理し、即実践可能にまとめたものです。

また、「知床の菌類」についての発表はこれまで殆ど調査されていなかった知床の菌類を業務の合間に収集し、過去に生育が確認されたリストに追加補充しまとめ上げたもので、関心のある高校などから資料の借り上げ依頼及び、簡易なキノコ乾燥機の作成方法の問い合わせが殺到しています。

前者は営林支局長優秀賞を、後者は惜しくも入賞をのこしましたが、自然科学面で大きな貢献が期待されます。



調査地となった自然観察教育林



シリーズ「知床八景」



② ブユニ山甲

知床半島の玄関口、斜里町を過ぎると斜里岳・海別岳の懐に大畑作地帯が現れ、ここから長さ6.5kmの知床半島が始まります。

平坦な海岸線は、優しさと厳しさを交互に見せつけながらウトロまで続き、半島随一の大きな橋、観別橋を渡ったところに「ブユニ岬」があります。



冬のブユニ岬からウトロを望む

ブユニ岬は半島のはほぼ中央に位置し、標高100m～200mの断崖絶壁はこの付近から始まります。ブユニ[puy-un-i]の言語は、アイヌ語で「穴のある所」の意味ですが現在は崩れて見ることはできません。

国道に接したブユニ岬は、知床八景の中でも最も容易に訪れる事のできる景勝地として人気が高く、ここからは遠く網走の山並み、そしてオホーツク海の大パノラマと水平線に沈む落日は訪れる人々の心の洗濯をしてくれます。